

NTEC

ボイラだけでなく熱源装置の専門メーカーとして 株式会社日本サーモエナー

大江 克明 (おおえ かつあき) 株式会社日本サーモエナー 事業企画室 室長

要約 当社は設立以来、タクマグループにおける汎用ボイラの製造販売会社として半世紀以上にわたり、国内外のさまざまな業種のお客様にご愛顧いただいていた。近年では、ボイラに加え各種熱源装置とそれに関連する商品で、省エネルギーや環境保全に貢献するため、エネルギーのベストミックスを実現する商品として「ボイラ」と「ヒートポンプ」を組み合わせた『ハイブリッドシステム』や『潜熱回収型真空式温水機』などを上市し、刻々と変化する時代の要求にも対応してきた。今後もお客さまに寄り添い、お客様を深く知ることで新たな価値を創造し、社会に貢献できることを目指す。本稿では、熱源装置の専門メーカーとして当社の概要と主な取扱機器、そして事業拡大に注力しているハイブリッドシステム導入について一例を紹介する。

1. 会社概要

当社は日本初の純国産水管式ボイラ「タクマ式汽罐」を発明した発明家でもある「田熊常吉」により設立された株式会社タクマ(創業時=田熊汽罐製造株式会社)の子会社であり、タクマが製造する小型貫流ボイラのサービス会社として1961年8月に『田熊クレイトンサービス株式会社』として設立された。その後改称を重ね、2005年に荏原ボイラ株式会社との合併により現社名となった。2007年には関東工場の操業を開始し、2014年にはタイ王国に現地法人「NIPPON THERMOENER (THAILAND) CO., LTD.」を設立した。本年で60周年を迎える。

創業以来ボイラの専門メーカーとしてボイラの開発、設計、製造、販売、メンテナンスまで一貫体制をとってきたが、機器単体としてのボイラ性能の限界と需要(負荷側装置)の多様性から、ヒートポンプ、バイオマスボイラなど環境保全に優れた機器もラインナップし『お客様の求める熱を提供する』熱源装置の専門メーカーとしてまい進している。

2. 取扱機器について

ひとくちに熱源装置といってもその需要は媒体(蒸気、水、空気、油など)や、温度域(農業用における20℃程度から工業用プレス機などに使用する200℃を超えるものなど)がさまざまである。基本的に効率(燃料は化石燃料が主体)は100%(低位発熱量基準)を超えない。

次葉に当社の主力商品である蒸気ボイラならびに真空式温水機の特長や用途などを述べるが、近年はシステム効率が100%を超えるハイブリッドシステムに関心が集まっている。

2.1 蒸気ボイラ

蒸気ボイラにおいては現在主流となっている貫流ボイラの他、炉筒煙管ボイラや水管ボイラなど蒸発量が100kg/hのクラスから水管ボイラは30t/hのクラスまで幅広いラインアップでお客様のご要望にお応えしている。

新たに納入されるボイラのお大半が貫流ボイラとなった背景としてボイラ技士などの取扱資格が不要である